愛の祈りは世界を動かす

理事長　阪　口　光　男

毎日テレビ・新聞から流れる戦争のニュースは私たちの気持ちを暗くします。世界中が平和の意味を考え「共に生きる」ことの大切さと難しさを突きつけられています。

『平和』とは共に生きられること、『戦争』とは共に生きられないこと、あらゆるものを生かすこと　生命を生かしていくことが『平和』だと思います。人間の奥底にある欲望を抑えることは難しいことです。自らの正しさを主張し、互いに罵倒し合い、制裁と報復で互いに牽制し、相手を屈服させようとします。世相を風刺する悪魔の辞典（A・ビアス）という本に「平和という土壌には戦争という種子がびっしりと播かれており、その土壌は種子の発芽および成育に異常なほど適している」と記されています。人間社会の危うさを的確に表現していると思います。自国と他国との利害関係や歴史的な確執、力と力のバランスを保つために戦争兵器の増産や核抑止力についての発言に向き合う時、平和と戦争が常に背中合わせになっている不安定な現実の中に私たちは生きていることを知らされます。国と国との争いによって、人々の人生と生命の尊厳が踏みにじられてはなりません。

表題は『賀川豊彦』という人の言葉です。インドのガンディー、アフリカのシュヴァイツアーに加えて世界の三大偉人の一人に挙げられる日本人です。社会的に排除されている人々、経済的に貧しい人と生活を共にしつつ、日本の農民運動、労働運動、生活協同組合運動、健康保険運動、福祉運動等々を通して日本及び世界の近代化と福祉社会の基礎を築いた一人です。賀川は第二次世界大戦の時、中国の蒋介石総統に戦争を憂いて熱涙の手紙を送っています。日本が中国の人々に行っている非情な行為について謝罪しつつ、中国の一人ひとりを愛の内に覚え、平安と平和のために祈っているというものです。戦後日本を分割して統治する案があったそうですが、蒋介石総統が猛烈に反対したと伝えられています。賀川の「愛の祈り」の故に、戦後日本は分断されることなく繁栄と復興を進めることが出来たといわれます。彼は戦後復興と世界平和のためにも力を尽くしました。

非暴力・不服従の象徴ガンディーは凶弾に倒れた時に、二本の指を額にあてて息絶えました。このしぐさは、『赦す（ゆるす）』を意味します。『赦す』ことは『愛する』ことです。　観念的・非現実的・短絡的と思われるかもしれませんが、今、世界は憎しみではなく『赦し合う』ことこそが問われているのではないでしょうか？『愛の祈り』こそが大きなうねりとなって『世界を動かす』ことにつながることを確信しています。

アインシュタインは『平和は、力によっては維持できない。それは理解によってのみ達成できる』と呼びかけています。

『愛の祈り』と『平和』への理解がひろがるように、私にできる募金や署名活動等に協力・参加することで非戦への声を上げ、『共に生きる』社会（福祉社会）を創造するための取り組みを深めていきたいと思います。

新しい体制で歩むこの一年、新型コロナ対策に向き合いつつ平和を祈る一年として歩んでまいります。今年度もご理解とお支えをよろしくお願いいたします。